

フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (1月分)

静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 3年 桑原大樹

年が明け、新学期が始まり、1か月が経った。体感5秒くらいだった。つまりあと15秒ほどで帰国となるわけだが、今回は前学期からの変化について書きたいと思う。

まずは天候についてである。先月の月例報告書でも述べた通り本格的な冬が到来しており、その中で通学となった。授業が開かれる校舎(日によって建物が違う)は遠くても徒歩で10分もかからないが、新潟出身の私でもかなりきつい。まあ新潟出身というときも寒さに強そうな印象を受けるかもしれないが、多少寒くても我慢して軽装で外出する浜松市民とは違い、冬には完全防備で身を包み温かくして出かけるワレワレ新潟星人は逆に寒さに弱いといえるのかも知れない。こっちでも装備を整えろよという話なのだが、全部がいちいち高額だし、帰国時に持ち帰るのも面倒なので、最低限にとどめている。気温は今のところ、最高で1℃か2℃、夜中には-5℃とかそんな感じだ。来週には-10℃くらいまで下がるらしいが、先月の体験を鑑みればたいしたことはない。雪も、少なくとも今月の段階では通行の邪魔にはならない程度である。ここから寒さ本番の2月となるわけだが、そこを超えたら少しずつ暖かくなっていくだろう。



新学期が始まり、私は1つ上のレベルのクラスへ進んだ。授業の科目は同じだが、先生が大きく変わった。4人いた先生のうち2人の先生が担当から外れ、新しく1人が付いた。Writing, Reading, Listening, Grammar, Communicationの5つの科目で、誰がどれを教えるか、という配置にも大幅な変更があった。なんというか、噛み合った感じがする。同じ先生でも、ライティングを教えるか文法を教えるかでだいぶ違う。そういう意味で、適材適所と言うとなんか偉そうだが、つまり、かなり良くなった。学んでいて楽しい。

授業が終わり学生ラウンジへ行くと誰かしらいるので、一緒に課題をやっている。今月は少し、交友関係を広げることに注力してみた。というのも、普段私と仲良くしてくれていたアメリカ人たちはもう私と会話するのに慣れてしまって、多少発音が悪くても聞き取ってくれるし、私でも聞き取れるように工夫して話してくれるようになったのだ。こうなってくると「普段友達とは問題なく会話できているのに、知らない人に突然話しかけられるとまるで何を言っているか分からない」という現象がかなり高頻度で起こる。おそらく留学生あるあるなのだと思うが、このままにしているのは進歩が望めない。幸い、知らない人と話すのは

得意なので、尽力している。ちなみに写真↓はピザポテトを食べるアメリカ人の友人である。



11月同様、「アメリカの大学での生活」を日々、ただひたすらに生きている。特筆するようなことは基本的になく、しかしそれでいて充実した、学びに満ちた日々である。そんな生活を送っていても、やはりストレスは溜まる。食事の不味さは相変わらずだし、実家の犬にも会いたいし、なにより同期との大学生活のうち9カ月をなげうったという感覚がずっと残っていて、日本に帰りたい気持ちをぬぐえない。特にその、同期との貴重な4年間のうち9か月も離れて過ごしているという感覚は、留学開始以来ずっと私を苦しめてきた。もともとコロナの影響で半年遅れてやっと友達になったのに、そこから2年も経たないうちに留学となったわけで、帰国すればあとはたったの10カ月でみんな卒業だ。彼らは今ちょうど、3年後期必修の総合演習を完遂したところだそうだ。苦しみながらも助け合い何とか達成し、打ち上げで寿司を食べている姿はあまりにも攻撃力が高かった。A180くらいあった。そのうえ残酷にも、打ち上げ中彼らは私に電話をかけてきたのである。

「コストコで爆買いして打ち上げしてるんだけど余っちゃって～。良かったら食べに来る？」

オランウータンのアイコンが私にスリッパダメージをかける。全く勘弁してほしいものだ。時差も考えず朝7時前に電話をかけてきやがって、こっちは寝起きでむにゃむにゃ言っているのに電話の向こうはなんかめちゃくちゃ盛り上がっている。楽しそうだ。俺も寿司食べたい。みんなに会いたい。幸せになりたい。楽しく生きていたい。この手に掴みたい。中川先生、今後の打ち上げは全部忍び込ませてもらいますからね。

留学に来ているのだから、文句を言っていないで学べばいいと思う。楽しむべきだと思う。周りを見ても思うのだ。楽しんで一生懸命留学している日本人はたくさんいる。彼らを見ていると、親に大金を出してもらってまで留学に来ているのに、帰りたい帰りたいとおぎゃおぎゃ言っている自分が情けなくなる。もちろん私も楽しいと思えてはいるし、一生懸命学んでもいるのだが、みんなとはこう、マインドが違う。みんなは本当に「留学生」という

感じで、楽しみながら学んでいる。一方私はどちらかというと「受験生」という感じで、要所にある文化祭や体育祭は楽しいしクラスメイトとも仲がいいが、つらいから早く終わらせたい、という感じで生きている。

つまるところまあ、楽しいし、あと3か月頑張ろうという気もあるけども、つらいのはつらい、でもつらいついて言ってる俺だけじゃん…って感じだ。こんな月例報告書どうなんだとも思うが、まあ、これでいいのかもしれない。これも留学経験者の立派な感想であり、今起きている現実だ。ぜひ参考にして頂きたいことも特にないな、うん。

もしかしたら周りのみんなも、隠しているだけで実は帰りたいのかもしれない。私もこっちの友人には言っていないので、その可能性は十分あり得る。とにかく分かって欲しいのは、「来てよかった」とは思っていることだ。慣れ親しんだ母国を離れ学びに来ているのだから、つらく寂しく、帰りたいのは当たり前だ。ただそれを超える価値が、留学には確かにある。それは断言してもいいと思っている。

ハッピーで埋め尽くしてジャパンまで行くために、あと3か月、とにかくひたすらに、日々を過ごしていきたいと思う。心臓を捧げよ！

最後急に適当になったが、べ切がヤバいのでこのまま出す。おっと、文句は言わせないぞ。「べ切がヤバいからこのまま出した」課題、お主らもたくさんあるじゃろ？